

---

# 居住・幸福度等に関するアンケート結果 について（要点）

---

令和7年7月  
聖籠町総合政策課

## ○調査の目的

「聖籠町の住みやすさ」、「結婚・子育ての状況」、「町民の地域幸福度（ウェルビーイング）」及び「社会のデジタルへの対応状況」に関する調査を実施し、民意を把握することを目的とした。

※第3期聖籠町まち・ひと・しごと総合戦略策定の参考とするため実施したアンケート結果を活用

## ○調査対象

令和6年5月31日を基準日とし、今年度16～18歳になる方全員と今年度19～39歳なる方から任意抽出した1,500人、今年度40歳以上となる方から任意抽出した2,500人

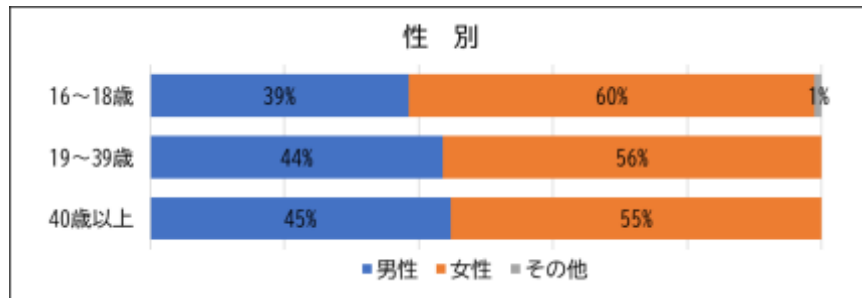
## ○回収状況

【全体】	回答者数	1,437人	(回収率	32.4%)
【16～18歳】	回答者数	96人	(回収率	22.3%)
【19～39歳】	回答者数	354人	(回収率	23.6%)
【40歳以上】	回答者数	987人	(回収率	39.5%)

年齢区分	アンケート依頼数			調査内容			
	対象人数	依頼人数	依頼割合	居住	結婚・出産・子育て	地域幸福度(住みやすさ)	デジタル社会
16～18歳	430人	430人	100%	○	○	○	○
19～39歳	2,995人	1,500人	50%	○	○	○	○
40歳以上	8,147人	2,500人	31%	—	—	○	○
計	11,572人	4,430人	38%	—	—	—	—

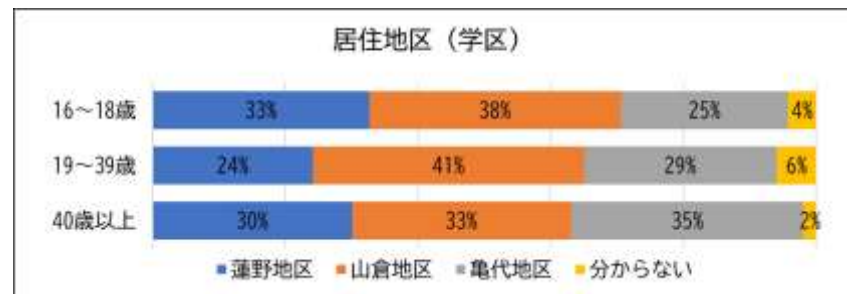
# 回答者について【全体】

## ○性別



女性の回答がやや多い。  
特に16～18歳が多かった。

## ○居住地区（学区）



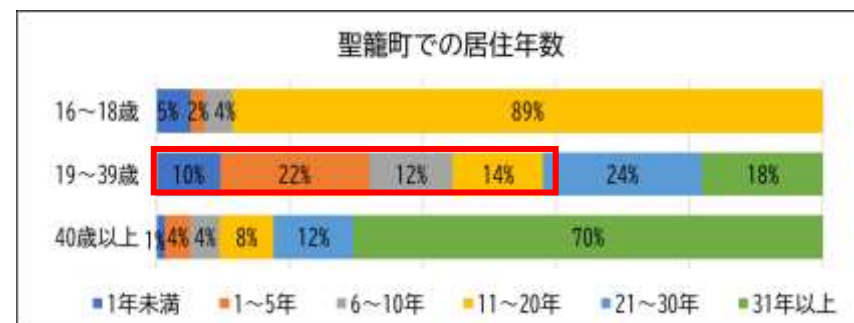
居住地区では、16～18歳と19～39歳で山倉地区がやや多かった。

## ○年齢区分別回答数・回答率



回答者は、70歳代が最も多くなっている。  
回答率でみると19～29歳が最も低かった。

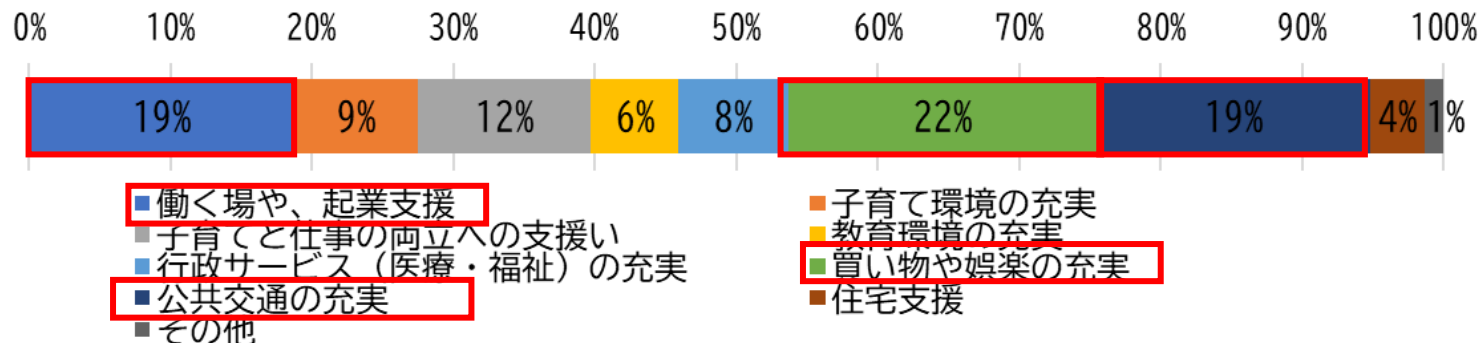
## ○居住年数



聖籠町での居住年数は、19～39歳については、58%が20年未満であり、転入してきた方が多いと思われる。

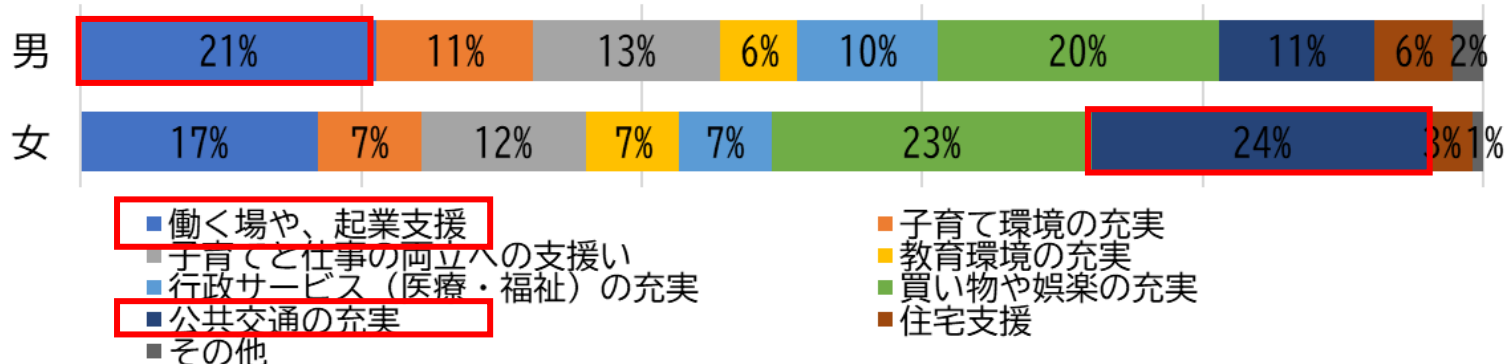
16～18歳への質問 (全員)

【16～18歳】住みやすくなる・戻ってきたいと思う環境や支援は何か



16～18歳は、「買い物や娯楽の充実」が最も多かった。次いで「働く場や、起業支援」と「公共交通の充実」が多かった。

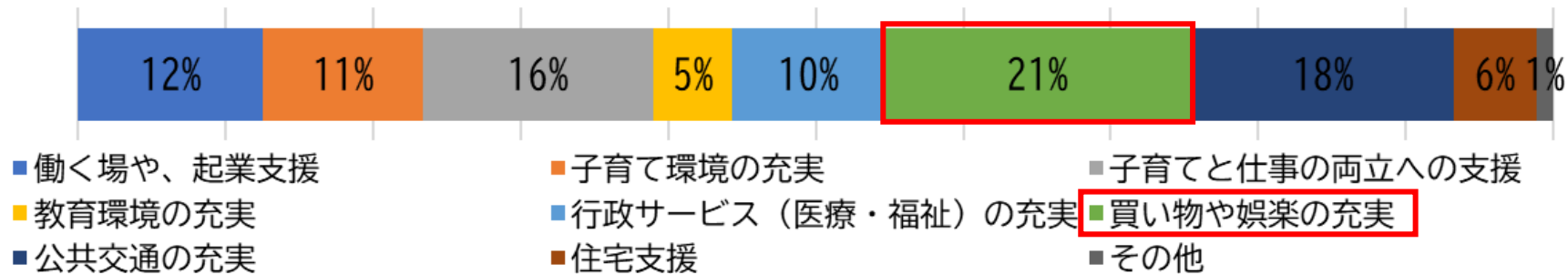
【16～18歳・性別】住みやすくなる・戻ってきたいと思う環境や支援は何か



性別で比較すると男性は「働く場や企業支援」と「買い物や娯楽の充実」が多く、女性は「公共交通の充実」と「買い物や娯楽の充実」が多かった。

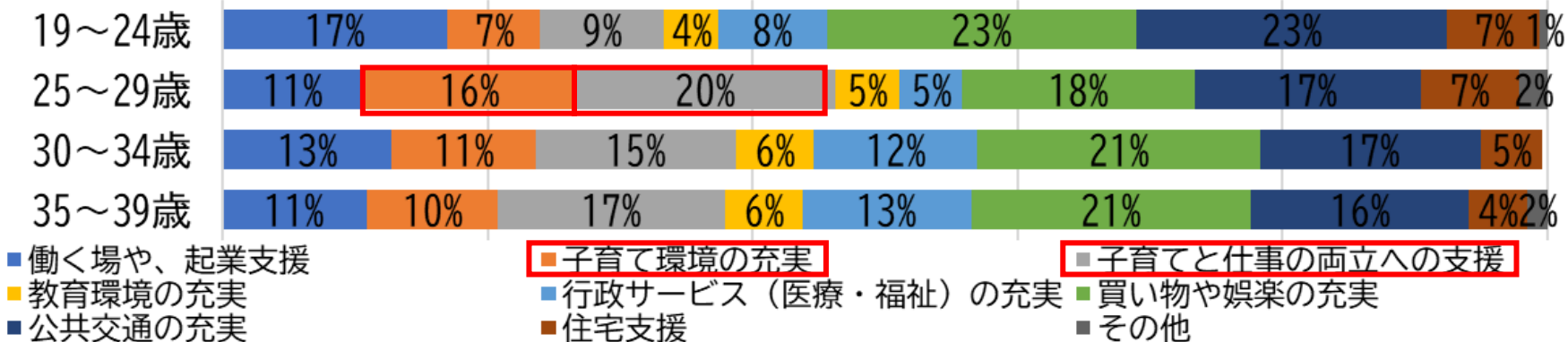
19～39歳への質問（全員）

【19～39歳】住みやすくなる、戻ってきたいと思う環境や支援



「買い物や娯楽の充実」が21%と最も多かった。次いで「公共交通の充実」が18%であった。

【19～39歳・年代別】住みやすくなる、戻ってきたいと思う環境や支援



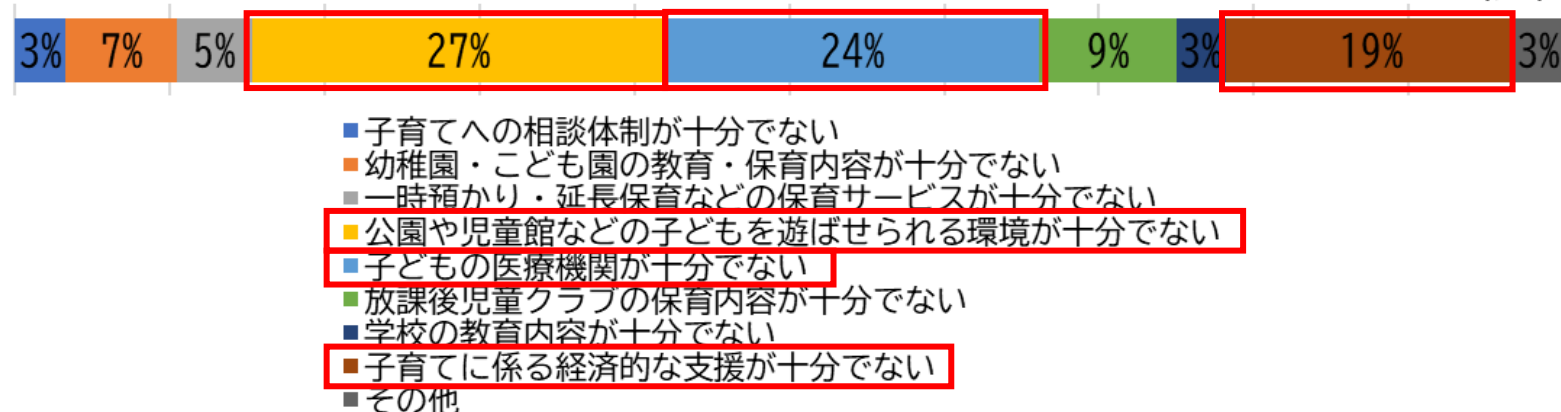
年代別で見ると25～29歳では、「子育て環境の充実」と「子育てと仕事の両立への支援」が他の年代より多くなっている。

### 【19～39歳】 聖籠町の子育て環境に満足しているか



「満足している」が13%、「まあまあ満足している」が52%で、65%が概ね満足している。

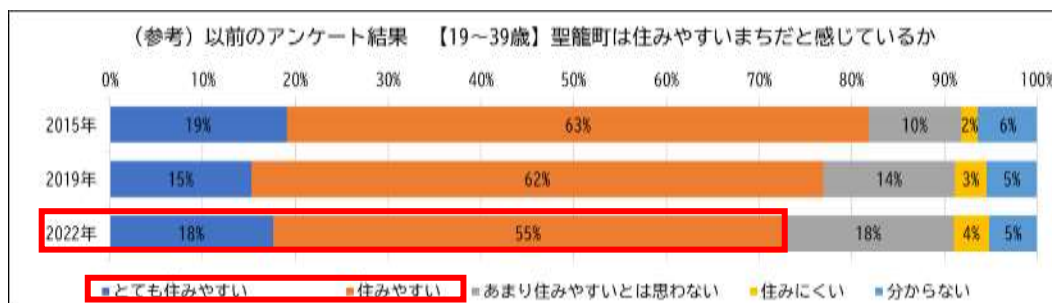
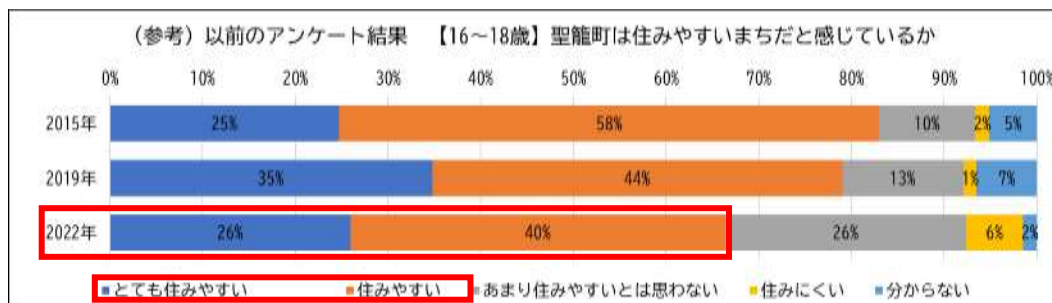
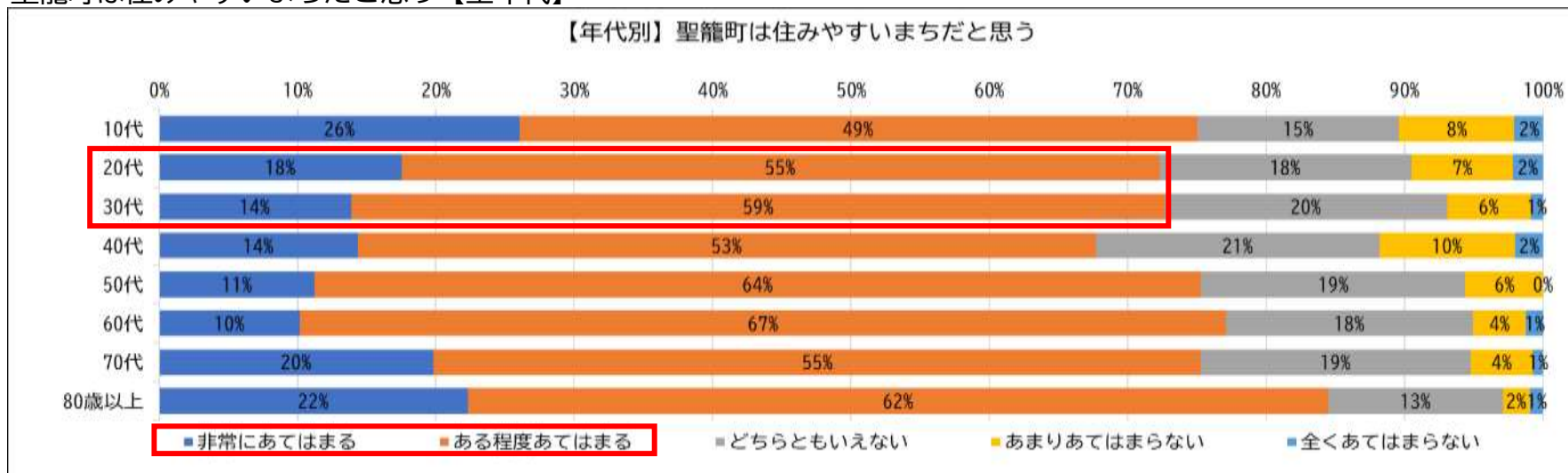
### 【19～39歳】 聖籠町の子育て環境に不満な理由 (人)



「公園や児童館などの子どもを遊ばせられる環境が十分でない」が27%で最も多かった。

また、「子どもの医療機関が十分でない」が24%、「子育てに係る経済的支援が十分でない」が19%と多くなっている。

聖籠町は住みやすいまちだと思う【全年代】

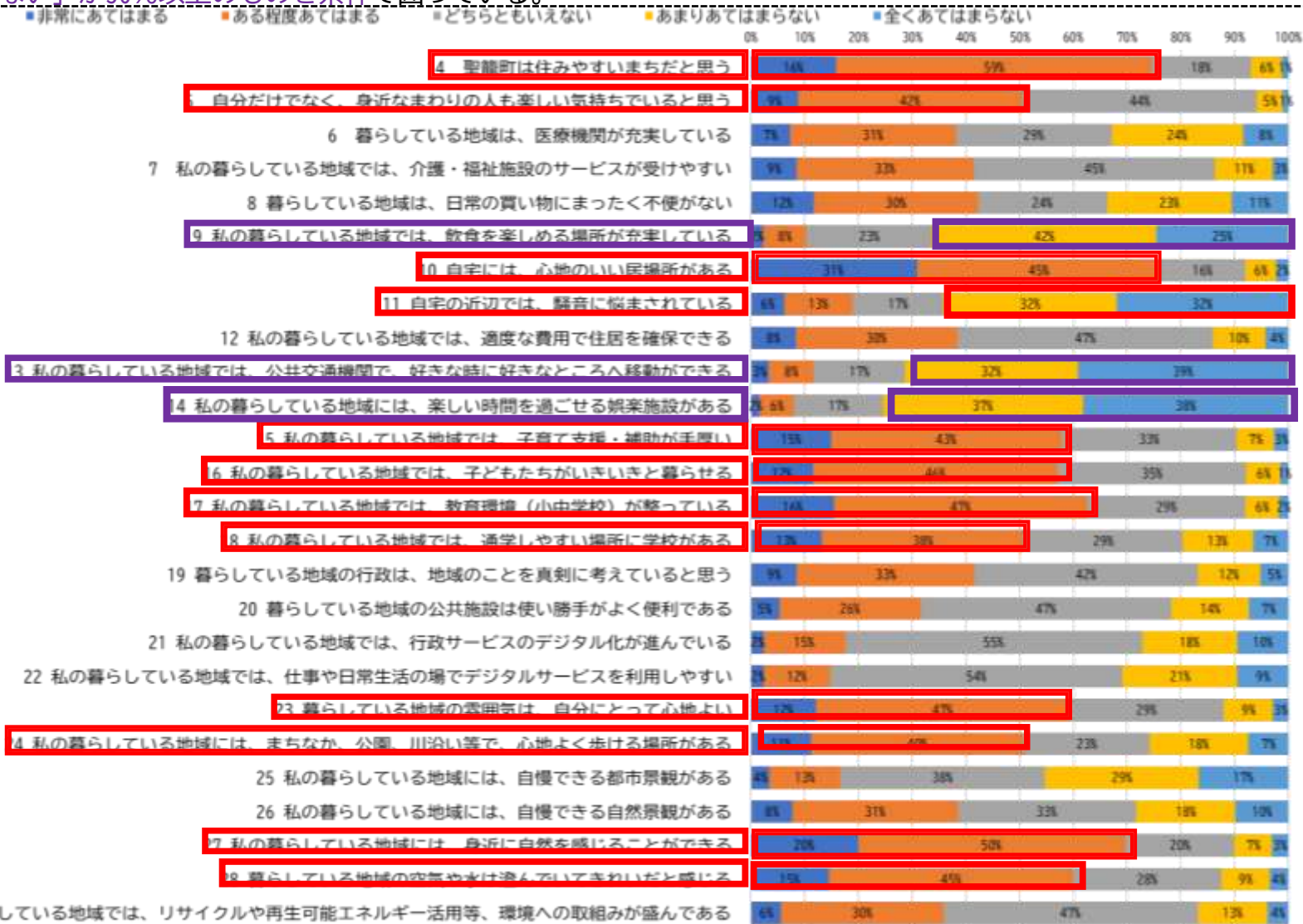


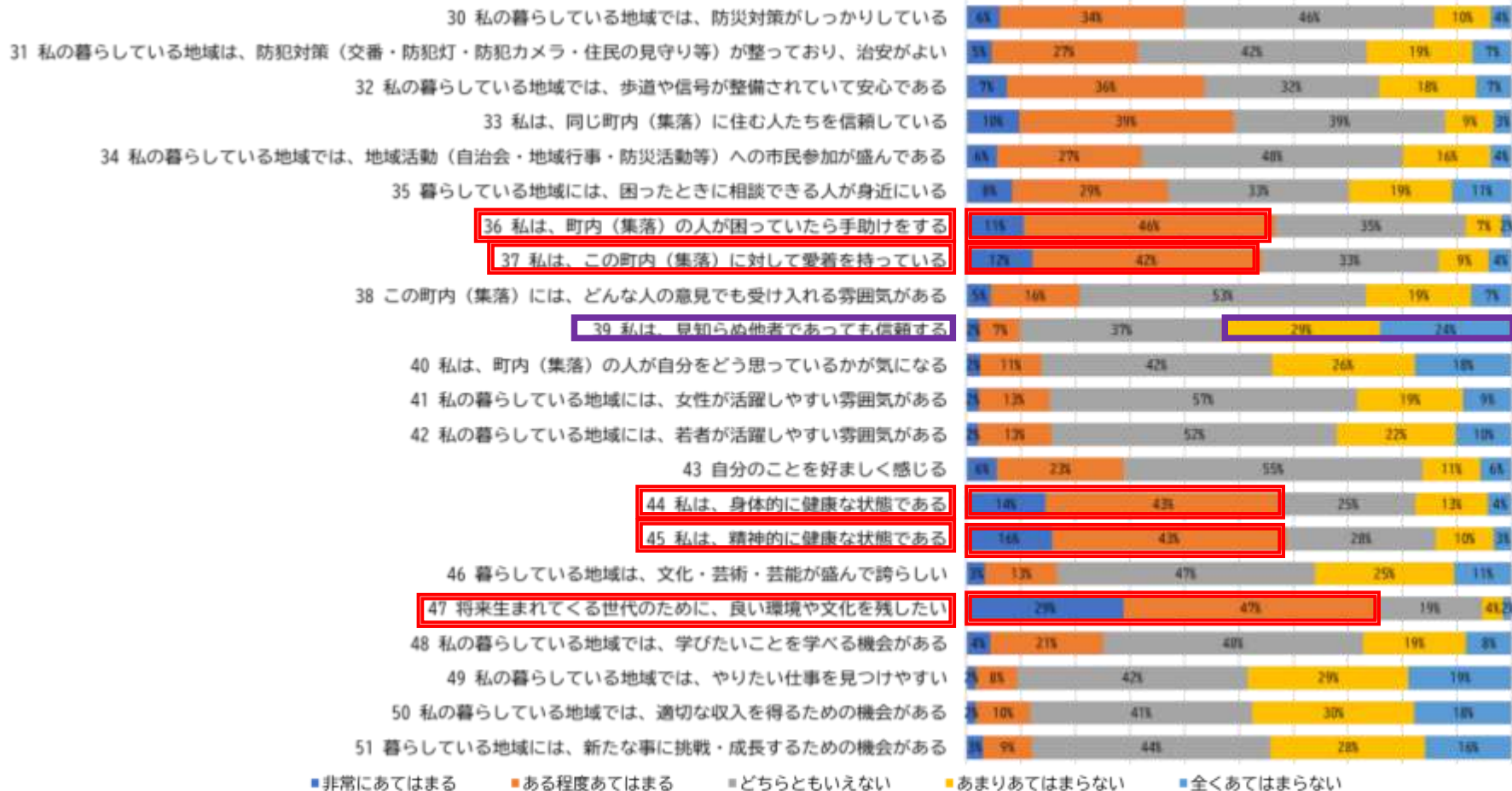
年代別でみると「非常にあてはまる」は10代が26%で最も多かった。  
 参考に2022年の調査結果では、「とても住みやすい」と「住みやすい」の合計が、16～18歳で66%、19～39歳で73%であった。  
 今回の調査の「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」の合計は、10代で75%、20代・30代ともに73%、40代で67%、50代で75%、60代で77%、80歳以上で84%であった。

# アンケート結果概要 (5) 地域幸福度（ウェルビーイング）について

全体の5段階（「非常にあてはまる」「ある程度あてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」）での回答結果。

特徴的なものとして、「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」が50%以上のものを赤枠、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」が50%以上のものを紫枠で囲っている。





○特徴	
<p>「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」が50%以上のもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居住環境（設問4, 11, 23, 24）</li> <li>・子育て、教育環境（設問15, 16, 17, 18）</li> <li>・自然（設問27, 28）</li> <li>・健康状態（設問44, 45）</li> </ul>	<p>「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」が50%以上のもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動、公共交通機関（設問13）</li> <li>・娯楽施設（設問14）</li> <li>・飲食の充実さ（設問9）</li> </ul>

【参考資料3】 P.8~

## ○カテゴリー別の偏差値評価

カテゴリー別の偏差値を主観（アンケート）と客観（オープンデータ）で数値化したもので、町の「強み」と「弱み」が明らかになっています。

### 強み（主観・客観が50以上）

【住宅環境】【子育て】【地域行政】【自然の恵み】【地域とのつながり】  
【自己効力感】【健康状態】

- ・「住宅環境」「子育て」に対する満足度が高く、それにより子育て世帯が一定数流入している。
- ・「地域行政」に対する満足度は高く、行政運営・公共施設運営はある程度良好な状態である。
- ・「地域とのつながり」の主観指標は極めて良好で、地域において良好な人間関係が築かれている。
- ・「健康状態」に対する満足度が高く、心身ともに健康であると感じている方が多いことが、幸福度の高さにも一定程度寄与していると考えられる。

### 弱み（主観・客観が50以下）

【買物・飲食】【移動・交通】【デジタル生活】【公共空間】【都市景観】  
【自然景観】【多様性と寛容性】【教育機会の豊かさ】【雇用・所得】【事業創造】

- ・「買物・飲食」「遊び・娯楽」「雇用・所得」「事業創造」に対する満足度が低い。  
⇒新潟市、新発田市へ通勤・通学する方が多く、生活エリアが町内で完結していない。
- ・「移動・交通」に対する満足度が低く、生活のための移動手段として自家用車が必要不可欠である。
- ・「デジタル生活」の客観指標が低く、行政によるデジタル利活用が進んでいない。

